

第488回今別町議会定例会会議録（第2号）

第2日（12月1日）

出席議員 6名

1番	本間 闘士 君	3番	田中 哲也 君
4番	小倉 潤二 君	5番	成田 精市 君
6番	本郷 良克 君	7番	福士 和比古 君

欠席議員 なし

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町 長	阿部 義治 君
教 育 長	佐藤 泰仁 君
会 計 管 理 者 税 務 会 計 課 長	奥崎 匠 君
参事・総務企画課長	太田 和泉 君
町民福祉課長	山崎 真直 君
産 業 建 設 課 長	阿部 聖 君
教 育 課 長	遠田 剛洋 君
副参事・総務企画課 課 長 補 佐	相内 譲 君
総務企画課課長補佐	阿部 真紀子 君
副参事・産業建設課 課 長 補 佐	田中 譲 君
町民福祉課課長補佐	成田 秀和 君
代 表 監 査 委 員	田中 裕文 君

職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

事 務 局 長	佐渡 慶剛 君
事 務 補 助 員	平山 良子 君

議事日程

第 1 一般質問

午前１０時００分 開議

○議長（本郷良克君） おはようございます。

本会議に入る前に、傍聴される方に連絡事項があります。傍聴人は次のことをお守りください。

私語など会議の妨害になることは慎んでください。写真撮影、音声の録音はしないでください。携帯電話の電源はお切りください。そのほか、会議の妨害になるような行為をした場合は、今別町議会傍聴人規則第11条の規定により退場を命ずることがありますので、ご了承ください。

これで連絡事項を終わります。

ただいまの出席議員は6名です。よって会議を再開いたします。

日程第１ 一般質問

○議長（本郷良克君） 日程に従いまして一般質問に入ります。

通告の受付順に質問を許します。

通告及び答弁は、一問一答で行い、できる限り簡潔明瞭に願います。

なお、質問については、同一議題について質問回数の制限をなくし、本人の持ち時間を2時間以内としております。また、関連質問並びに通告以外の質問は認めませんので、ご了承ください。

４番小倉潤二議員に質問を許します。小倉議員。

○４番（小倉潤二君） おはようございます。

それでは、私からは３問について質問いたします。

まず１つ目に災害に対する取組について。災害時に対する自主防災組織体系は機能したのかについてお聞きします。

２つ目にナマコ養殖について。まずこのナマコ養殖のこれからの段取り、その方向性について伺いたいと思います。

３つ目として津軽線存廃について。

①として津軽線に関する住民アンケートの結果はいつ公表するのか。

２つ目として、ＪＲはバスの転換が望ましいと明言しているが、その鉄路にこだわる理由をいま一度確認したいと思います。

それでは、質問１、災害に対する取組について。要旨といたしまして災害に対する自

主防災組織体系は機能したのか。

今別町には防災計画があると思いますが、それに伴う組織活動はなされているのか。
また、昨年8月の大雨災害の際、各地区の自主防災組織はどのように機能したのか、また、災害後の見通しはなされたのか、お聞きします。お願いします。

○議長（本郷良克君） 町長。

○町長（阿部義治君） どうも、おはようございます。

ただいま4番小倉潤二議員の質問についてお答えいたします。

まず、今小倉議員から3点出ております。

まず1番の災害に対する取組について。これについては担当課長より答弁し、2番のナマコ養殖について担当課長より報告し、3番目の津軽線の存廃について要旨として2つあります。1つ目の津軽線に関するアンケートの結果はいつ公表するのか、これについては担当課長から答弁し、次の要旨2の、JRはバスの転換が望ましいと明言しているが、鉄路にこだわる理由をいま一度確認したいというような、この点については私から答弁とします。そして、全体にわたって担当課長等も答弁しますが、私から再質も答弁しますのでよろしくお願いいたします。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） おはようございます。

4番小倉議員からの質問1、災害に対する取組について。要旨といたしまして災害時に対する自主防災組織体系は機能したのかについてお答えいたします。

初めに自主防災組織についてですが、大規模な風水害等の災害が発生した際、被害を最小限にとどめ、被害の拡大を防止するために、地域住民が自主的に防災活動を行う組織が自主防災組織であります。

当町における自主防災組織は2団体12地区で組織され、防災活動に現在務めているところでございます。昨年8月の大雨災害では、組織隊員であります地区総代、町内会長等へ避難所開設の連絡を入れ、町職員を配置するといった体制を整え、地域住民の避難に対応したところであります。

今後は、地域の実情に応じた自発的な防災活動の推進や自主防災組織の必要性の認識を高めるため、訓練や研修会等を通じた育成・強化等に努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

○議長（本郷良克君） 小倉議員。

○4番（小倉潤二君） どうもありがとうございました。

昨年8月2日から8月13日にかけて、線状降水帯による大雨で町には多大な災害をもたらしたことが、まだ記憶に新しいところであります。ただ昨年の災害に対して、避難所開設にあたり行政側の指示には、私見たところでは大きな問題点があったと思うんです。

1つは、襲月地区、大泊地区、この地区は会館に避難所を設けたはずなんです。この避難所は裏が崖になっており、大雨に対しては非常に危険、いつ崩れるか分からない、そういう状態の高みもあって危険な場所だと私は認識しています。まず、この避難所はこの大雨で崩れた際の二次災害にもつながります。決して襲月会館、大泊会館は、避難所に向いていないと私は思います。

次に、浜名会館です。この浜名会館は川沿いにあるため、増水した場合、二次災害のおそれもあります。これは襲月も大泊も含めてですね。そういう危険な場所に避難させたということは、本当に問題があるなと私は感じました。

各地区の総代さんにも確認したところ、役場からの指示でこの会館を避難所に指定したということでした。どういった理由でこの場所を指定したんでしょうか。その経緯をお知らせください。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） まず大泊地区に関してなんですけれども、確かに小倉議員おっしゃられるとおり会館裏は土砂災害特別警戒区域になっております。そこは会館のみならず地域の方が全てその該当になるんですけれども、今回の大雨の際、我々役場職員、役場にいろいろな情報収集した中で、海岸方面なんですけれども地方気象台からとかの情報ですと、あそこが災害区域になっておりませんでした、実際。すぐ避難しなさいという情報ではなかったもので、ですので会館という判断をしました。また、会館の場所なんですけれども、避難した場所もなるべく離れた、崖に近いところじゃなく、なるべく離れたところにいるようにしたところだと思います。

また、襲月地区に関しては、確かに会館開設したと思うんですけれども、その後、海峡の家のほうに避難しております。また襲月に関しては、こちらは大泊と違って土砂警戒区域、さらにはその傾斜から会館までかなり距離がありますので、そこに関しては、大泊以上には問題ないのかなと思っております。また、襲月に関しては、自主防災組織というか、地区の方が率先して海峡の家のほうに避難誘導等をしていただいたので本当にありがたかったところでございます。

また、浜名地区の会館に関しては、前にも本間議員からも同じような質問あったんですけども、今回の水害に関してなんですけれども垂直避難というのを推奨しました。ですので、1階ではなく2階のほうに避難するというのでもかなりの避難効果がありますので、そちらで対応できたのかなと思っております。また浜名地区においては、避難場所といたしましてはてんしょう苑とか、またスキー場もありますので、そこに関しては、やはり危険と感じたら、避難指示を待つよりもやはり自らとか地区のほうで自主的にそういった高台に避難するとかそういったのにもぜひ心がけていただければなと思っていますところでございます。

○議長（本郷良克君） 小倉議員。

○4番（小倉潤二君） 確かにそうですよね。いろんな災害があるので、その災害に適した避難所を選ぶ必要が必ず出てきます。襲月の場合は、私、仕事上なんですけれども、七曲り周辺が土砂が崩れて新聞配達車がもう土砂に埋まってしまって、私その車を撤去して、それから地区の会館に向かったんです。そのとき、何でここに避難所を設けたのと言ったら役場の指示ですと、ここ一番危ねべなと私そう言った記憶あります。その後、午後から海峡の家に避難所を移動したわけなんですよ。やはり課長おっしゃったとおり危ないなと危険だなと思ったら避難所を、それこそ海峡の家とかそういうところにもう、すぐ移動することを私は求めます。まずいずれにせよ自然災害にはいろんな災害あります。災害に適した、行政でも情報収集や災害に対する備えを自分たちで持っている何かそういう組織あると思うんですよ。そういう備えをしていただき、それを的確に各地区に指示して安全な避難所を開設していただきたいと思います。

災害に対してはこれで終わります。

次に、2番としてナマコ養殖について。これからの段取りと町としてどのような方向性を持って取り組んでいくのか伺います。お願いします。

○議長（本郷良克君） 阿部課長。

○産業建設課長（阿部 聖君） おはようございます。

4番小倉議員の質問2、ナマコ養殖について。要旨といたしまして、これからの段取り・方向性について答弁させていただきます。

当町では現在、竜飛今別漁協が実施するナマコ人工種苗生産事業及び種苗放流事業に対して資源の拡大を図るため、補助金を交付しております。また、小倉議員にも委員として参加していただいているナマコ資源拡大検討委員会において、ナマコ種苗生産施設

についても検討を重ねているところであります。

今後については、令和3年度より実施している種苗放流による個体数増加の効果を確認し、その結果を基に放流事業及び生産施設整備などについて引き続き検討委員会をはじめ、関係機関と協議し進めていきたいと考えておりますので、議員皆様におかれましてもご理解とご協力をお願いいたします。

○議長（本郷良克君） 小倉議員。

○4番（小倉潤二君） どうもありがとうございました。

まず、これまで今別町は、全体的にそうなんですけれども、捕る漁業を主体にやってきましたが近年ナマコ放流事業に力を入れております、この今別町は。でも、まだ結果とか成果は出ていないのが実情なんです。漁業従事者の高齢化と承継者不足や資源の減少などの影響を受けて大変今厳しい状況に置かれております。養殖を中心とした水産業に注目が現在集まっています。これは全国です。全国全部、養殖事業に注目が集まっています。今その中でも一番注目されるのが陸上養殖なんです。何で陸上養殖がいいかというと、一つは漁業権を取らなくてもいい、漁業権を有しないというのがもう最大のメリットですね。それと、海面養殖に比べて作業が本当に簡単なんです。生けすとかそういうものに入れての管理、そういう管理になりますので本当に作業がしやすい。それと、陸上のため時間的にも管理がしやすい。人数的にもそんなに人数も使わない、少人数でできる。

昨日、常任委員会の報告でもありましたが、南三陸株式会社ケーエスフーズというところを視察してきましたが、資本金が1億円程度。この1億円を9割の、農林水産業みらい基金という9割の補助金を使ってやっておりました。9割ということは、1億円ぐらいかかっているので町の負担としては大体1,000万円、みらい基金から9割ですから9,000万円ぐらいですね。本当に簡単なんです。水槽を並べて、その中で卵、卵からふ化させてやっているので、すごく今別には向いている養殖だなと私は感じてきました。

まずこれ、ここで1回再質問します。この9割の補助金がもし承認されたら、町として支援や協力体制は取れるのかお聞きします。

○議長（本郷良克君） 阿部課長。

○産業建設課長（阿部 聖君） まずみらい基金に対してまず申請を上げることにはなると思うんですけれども、まずその前に経営主体を町がメインでやるのか、それとも漁協さん、もしくは協力企業さんですね、そちらが主体になるのかどうかをまず検討しなけ

ればいけないと思っております。ですので、みらい基金のまずそこをどちらで基金に対して申請を行うかというのもまだこれから検討が必要なことですので、その後の話に関してはこれから協議する形になると思います。

○議長（本郷良克君） 小倉議員。

○4番（小倉潤二君） どうもありがとうございます。

多分、行政のほうでは多分できないと思うんですよ。ですから、企業とか漁協さんのほうに主体権、何ていうの、そのほうに向かっていくと思うんですよ。行政のほうで商談会、始まりの段階ですね。協力できるのか、町長にお聞きします。

以前、サーモンの養殖の場合、阿部町長が我々に協力体制を要請したと思うんですよ、サーモンの事業をやる前に。このナマコ養殖に対しても町長は同じ意見でよろしいですか。

○議長（本郷良克君） 町長。

○町長（阿部義治君） サーモンの養殖事業というのは、これはオカムラ食品が主体となって今別町に申請して、沖海でサーモンの生けすでサーモンを養殖したいということで、十分デンマークの例も挙げて私も現地を見させていただきました、デンマークを。そういう中で、非常にもう事業展開がうまくいっているデンマークをそっくり今別町にやろうということで私も賛同し、議員の皆さんもいろいろオカムラ食品の社長からも説明を受けて皆さんも賛同し、今、元の町立体育館の場所も貸して今事業展開うまくいっております。そういう中で今、私今ナマコの養殖、これ前々から細かいお金は出しながら漁協に水槽を買ったりなんだりして親ナマコから稚ナマコの繁殖とかやったんですがなかなかうまくいかない、放流も、稚ナマコを買ってきて放流もやったんですよ。なかなかうまくいかない、小倉議員も言ったように本当になかなかうまく進まない。

しかし、今このナマコの、皆さんが今ナマコの資源拡大検討委員会というのがあって小倉議員も今メンバーになっています、役場の課長級も今メンバーになっています。この中の要綱なんかを昨日もおとといも見て、職員からも話を聞きました。やっぱり施設をまず造る、その手前で会社を立ち上げなきゃいけない、会社を立ち上げるためには相当のまた労力も必要です。専門の人が会社の定款から何からつくって、職員の任用もある、それから資金も集めなきゃいけない、まずここが先になってきます。さっきの補助金も事業主体がしっかりしないと補助金申請もできない。そのあとに来るのが、ついてくるのが建物です。これも資料を見ると2億円ぐらい、2億円ぐらいというのが出てい

ますので、こういう中では民間の会社、漁協、今別町、それまた賛同する会社があれば入って、出資なりしての会社をまず立ち上げると。そういう方向について、私も昨日から見て、大変なことなんでしょう、やっぱり漁家のやっぱり所得向上を目指すというのは、前々から私の考えは水産業の推進という捕る漁業から育てる漁業と私前から言っていましたので、そういう点では今のこの検討委員会の意見も大事にしながら推進していきたいと思っていますし、放流に対してもこれからまだ続けていかなきゃならないという域において新年度予算でまたそこを検討してまいりますのでよろしくお願いします。

○議長（本郷良克君） 小倉議員。

○4番（小倉潤二君） ありがとうございます。大変心強い言葉をいただいたようで。

今、今別町では北海道の三方さんから稚魚、稚魚というんですか、買ってきてやっているんですよ。この陸上養殖の生けす等で養殖した場合、数もすごく増えていくんですよ、卵からやるもので。それを今度、もし今別町で企業、どこかの企業でもいいんですけども、例えばサーモンを今やっている、サーモンの方々でもいいんですけども、脇のほうにも売買できる、なおさら自分たちの町でも放流とかできる、そういう数多い個体数が期待されるんです。

ですから、町長も言ったように、人材確保とかそういう企業とかの事業者も集めなきゃ駄目なので時間はかかると思うんです。でも、見てきたケーエスフーズさんはすごい二、三人でやっているんですよ。漁業権持っていないし、漁業権も要らないし、本当に魅力あるそういう事業だと私は見てきました。ぜひ課長さんも町長さんも前向きに考えていただいて、これからの町の漁業発展のために尽くして、尽くしてというよりは初期段階の手伝いをしてもらえればと思いますので、よろしくお願いいたします。

ナマコ養殖についてはこれで終わります。

次です。3番目の①として津軽線存廃について。

先般、津軽線に関する住民アンケートを実施しましたが、その結果はいつ公表するのかお聞きします。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 4番小倉議員の質問3、津軽線存廃について。要旨といたしまして津軽線に関するアンケートの結果はいつ公表するのかについてお答えいたします。

初めに、津軽線に関する全世帯アンケートの実施について、町民の皆様にはご理解と

ご協力をいただき誠にありがとうございました。

当該アンケート結果については現在集計し、町民に分かりやすく公表するためにグラフ化するなどの作業中であります。

今後、議員の皆様とアンケート結果や公表について協議し、1月の広報紙で公表を予定しておりますので、議員皆様におかれましてもご理解、ご協力をお願いいたします。

○議長（本郷良克君） 小倉議員。

○4番（小倉潤二君） まず、このアンケートは多分、町民の真意を聞くために、津軽線存廃についての真意を聞くために行ったアンケートだと思います。地域名、年齢、性別を書き込んだアンケートになっています。でも、町民の方から地域名とか年齢とか性別を書き込むことによって、その地域地域、人数少ないために名前が分かってしまう。名前が分かってしまうので、本当にそのアンケートに自分の気持ちを答えればいいのかという意見が大変多くありました。多分、このアンケートは本当の真意じゃないと思うんですよ、町民の。この地域名、性別とか書き込ませたのはどういった理由からでしょうか。

○議長（本郷良克君） 町長。

○町長（阿部義治君） このアンケートをする前にも議員の皆さんとお話ししたんですが、今別町としてこの津軽線存続、バス路線等様々な、今JRと協議会でやっている中で、町でこれからのJRとの対応の判断するための資料として、まずもらおうと。それを、データがどう出るかはまだ定かではありませんので、その結果のためには、やっぱり津軽線を利用している人、利用していない人、地域的にどういうアンケート結果があるのかなというそういう我々行政側としての手持ち資料として、これは公表するわけではありません。手持ち資料として知り得るためのものとして、地区と、それから性別を記入させていただきました。これは公表するわけではありません。これらについてはまた議員の皆さんと後ほど協議しますので、よろしくお願いいたします。

○議長（本郷良克君） 小倉議員。

○4番（小倉潤二君） 分かりましたけれども、本来アンケートは無記名でも名前を記載させてもどちらでもいいんですけれども、アンケートそのものは無記名で行うというのが、無記名でやるというのは名前を特定する必要がないという理由以上に、町民の意見、国民の意見でもいいです。この真意を確かめるためにアンケートを取ると私はそう認識しています。今の名前、地域名、性別を書き込ませたことによって、本当の町民の真意

のアンケートになっていないと私は思うんです。名前じゃない。性別、地域名、あと年齢ですね。こういう大事な案件は、私は無記名のほうがよかったのではないかと思います。

質問なんですけれども、またこのアンケートを取ってからまた時間が過ぎています。大分時間が過ぎています。この時間が過ぎたことによって、町民の考えも気持ちも変わってきていると思います。いま一度アンケートを取るといったことは考えているんでしょうか。（「もう一回」の声あり）もう一度アンケートを取るといった考えはありますか。

○議長（本郷良克君） 町長。

○町長（阿部義治君） まず先ほども答弁した中で、アンケートというのはこの間のアンケートで最後だと私は思っていますし、これから議員の皆さんと話をするんですが、その結果どう出るかは分かりませんが、私は2回目のアンケートというのは考えておりません。ただ今小倉議員言ったように、まず調査をやってから今12月に、今日で12月に入りました。3か月以上たっている。私にも来ているが、町民から来ているのが、いつ公表するんだというのが来ていましたので、間もなく今、~~今部長の~~太田参事が言ったように今集計中で、どのようにして町民の皆さんに分かりやすい、グラフ化でやったらいいか、そのようなのを読みながらやっていましたし、あと議員の皆さんときちんと1月広報に載せるためには、今日の本議会の後に議員の皆さんと一緒にこのデータを見ていただいて、それから公表という入り方をしたかったので、今回は12月の広報でなくて1月広報という形を取らせていただきました。よろしくお願いします。

○議長（本郷良克君） 小倉議員。

○4番（小倉潤二君） 町民からの声は、アンケートを取ったのに何でこう遅くなって、まだ報告というか、あれにも我々に周知させないんだとそういう意見がもう大分あったもので、この質問をしました。たださっきも申し上げたとおり、アンケートは町民の真意を得るためのアンケートなので、やはりこの性別とか地域名を入れさせるということは本当に町民の真意を聞けない。多分みんな、私の聞いた限りでは本当のことを書いてない人多いです。本当の真意ではありません。これは確実です。

ですから、私は町長にもう一度アンケートを取る気持ちはあるのかとか考えがあるのかと聞いたんですけれども、取らないということなので、アンケートの結果は1月広報に載せるということなので、これについては町民の方も見てくれると思いますので、こ

の質問はこれで終わります。

次に、②としてＪＲ東日本はバスの転換が望ましいと明言しているが、鉄路にこだわる理由をいま一度、確認したいと思います。

○議長（本郷良克君） 町長。

○町長（阿部義治君） それでは、４番小倉潤二議員の質問３にあります津軽線の存廃について。要旨として２番目の、ＪＲはバスの転換が望ましいと明言しているが、鉄路にこだわる理由をいま一度確認したいということであります。

答弁いたします。これまで議員の皆様とは、この津軽線の問題について意見交換等を実施してまいったところであります。その中で町のスタンス、そしてまた町のスタンスとしては、災害前の津軽線への復旧をＪＲに要望していくと説明してまいりましたし、そのように行っております。

その理由として、災害を機にＪＲ側の一方的な事情によってバス等の自動車交通への転換案が出されました。災害がなければ、今も普通に津軽線は運行されていたはずです。本来であれば速やかに復旧すべきであります。また、自動車交通への転換案については、特にバス運行の冬期間における小国峠の危険性や定時運行性、社会問題となっている今後のドライバー不足問題、そしてまた高齢者の免許返納の増加など諸課題や不確定要素が多く、三厩・蟹田間は従来の鉄道が最善であると私は認識しております。

この津軽線は、蟹田・三厩間だけでなく青森から三厩駅までが津軽線であります。強いては青森県内のローカル線ですので、私は、県知事がリーダーとなり沿線自治体と一緒に協力を進めていただくことが最も必要であると考えております。そして、11月19日、知事と市町村長の意見交換の場において、このことを知事に強く要望してきたところであります。

引き続き議員の皆様におかれましても、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

○議長（本郷良克君） 小倉議員。

○４番（小倉潤二君） 確かに今の答弁理解できるんですけども、現状、今別も外ヶ浜町も人口の増加が望めない、この状況では利用者の増加も望めないということになります。鉄路にこだわるのであれば、それなりにＪＲに、アンケートの結果もそうなんですけれども、ＪＲを納得させるための材料、今の新聞報道とかを見てもそういう材料が何も出てこないんですよね。ですから、これはその材料、考えを、鉄路にした場合、これが利便性になる、経済効果が出るとかそういう材料、考え方をＪＲに示していく必要が

私はあると思うんですよ。今鉄路にあんまりこだわり過ぎれば、解決だけに時間がかかり前に進めない。それが今の現状なんですよ。どっちももういたちごっこになっている、そういうふうに私は感じています。

それと、外ヶ浜町はある程度バス転換で理解を示しています。阿部町長は鉄路、足並みがそろってないんですよ。やはりこういう問題は、両町の問題だけじゃないんですけども、両町が同じ考えを持ってＪＲに理解を求めなきゃいけないと思うんですよ。その辺いかがでしょうか。

○議長（本郷良克君） 町長。

○町長（阿部義治君） 今、小倉議員が言うように両町足並みをそろえて、当然両町と言わず、蓬田村、青森市、津軽線の沿線４市町村長が足並みをそろえてやらなきゃいけない、それは当然であります。ただし、それぞれの主張として考え方があります。

私は議員の皆さんといろいろ協議しながら、町の方針も議会の方針も決めて、今ＪＲにお話を担当課長等からしてもらっています。そういう中で、ぜひ外ヶ浜も今別町のように、最初、山崎町長さんも鉄路の話、最初はしたんですよ。どこからか、ＪＲ東日本がバス路線の話、突然に３回か４回目の会議から出て、してきたあたりからそういうふうになった。最初、私と同じく鉄路を望む、復旧を早くしたいというのが山崎町長も同じ考えであったんだけど、途中からちょっと変わってバス路線でもいいんでないかなという話っこし出したら、今度、お金の問題、上下分離で４億円が自治体という話出てから、その辺りからちょっとやっぱり金のお話をされてからちょっと山崎町長さんがちょっと一歩下がった感じがあって、お金をかけるならバス路線でいいんでないかと、そのお金を福祉等に使えればいいんでないかというのが新聞記事にも出ていました。でも、山崎町長も恐らく私と同じで、鉄路には復旧してもらえばそれにこしたことはないという考えだと思います。

そういう中で、私この間、青森市長さん、蓬田村長さん、私、山崎町長さん、４者で会議の場を持ちました。この会議の場は、鉄路がいいかバスがいいかという議論でなくて、まず青森市長の西さん、それから久慈村長さん、それから山崎町長さん、おのおの考え方と今まで入った情報を各自が発表して取りあえずそれで終わりました。それで議論するんでなくてということで終わりましたので、そして知事室に行こうということで話をまとめていたんですが、今知事も今１１月１９日に話した日時は来てくださいということですので、知事はしっかりと、４人の話をしっかりと聞きたいと、聞いてからまた皆

さんと協議したいということで一步前進していますので。

鉄路にこだわるのは、様々な今の峠の道路の問題、昨日おとといも事故に遭っていました、峠で。ＪＲのバスが迂回しています、海岸線を回っています、こういう状況ですということで、鉄路にこだわるというのではなくて、やっぱり鉄路を求めている三厩地区の人たち、今別町の人たち、利用している人がこれ以上いる限りは、やっぱり地元の町長として鉄路にこだわるんでなくて頑張っていかなきゃいけない。

そのためにも今、ちょっと長くなるんですが、先般、８月30日、全国知事会から政府に要望が出ております。全国のローカル線に対しての要望が出ております。この中で輸送密度等に着目したローカル鉄道の在り方の検討の影響を受け、災害を機に沿線自治体の意向を十分尊重することなく、鉄道事業者側の一方的事情により安易に存廃や再構築の議論を行わないよう、さらにです。ここが大事なんです。さらに、鉄道事業者が速やかに復旧に着手するよう、国の責任においてＪＲを指導するようというところが出ております。

こういう中で、国も今こういう災害の起きた鉄路、早期復旧と銘打っています。全国的にそういう中で今、全国に何か所か今、災害を受けて復旧していない、九州、大分にもあります、津軽線もそうなんです。そういう中で、これから知事を先頭にしながらいろいろ議論し、議員の皆さんとの話を詰めながらどの方向が一番いいのかと前からみんなでしゃべってきた、どれがいいんだと。ＢＲＴも見に行ったら、そういう中で様々やって模索している中で、これから、少しまた時間がかかると思うんですが、行司役として宮下知事が先頭になってくれる約束をしましたので、その辺で詰めていきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

○議長（本郷良克君） 小倉議員。

○４番（小倉潤二君） そうですね。まず、町長今言ったことはよく分かります。

でも、今の国の試案ですか。あれ聞いたんですけれども、この鉄道に関しては根っこは国のほうにあるんですよね。昔は国鉄時代、国鉄時代に津軽線とか全国各地の路線全部やったのがもう国鉄時代なんです。それを、多分国では赤字路線だということで、ほとんどがそういう状態になったと思うんですよ、このＪＲに引き渡したとき。要は国にも責任あるんですよ、これは、根っこを探れば。今町長も言ったように宮下知事と一緒に進めていくということでしたので、そういうことで私は理解しました。

最後になりますが、万が一、万が一、鉄路で折り合いがつかない場合のことを考えて

いるんでしょうか。

○議長（本郷良克君） 町長。

○町長（阿部義治君） いや、ここで議員とまだ話をしてないのに万が一の話は、私はできないです。

○議長（本郷良克君） 小倉議員。

○4番（小倉潤二君） そうですね。この議会が終われば何かまた説明があるみたいなんですね。

とにかくバス転換になった場合、今町長がおっしゃったとおり14号線、山の道路ですね、この山の道路も一緒に頭の中に入れておいてもらって、その辺も一緒に進めていってもらえれば、この鉄路と同じに。本当に危険な場所なんです。昨日でしたっけ、事故あったの、昨日おとといも。そういう危険な道路なので、鉄路と一緒に国に要望していただければと強く私からも要望します。

これで、私の質問を終わります。

○議長（本郷良克君） 町長。

○町長（阿部義治君） 峠の道路の話、今出ました。この峠の道路については、今進捗しております。県では、宮下知事も今同じ考えで平たん道路ということで今動き出したので、今日も県議会で今議論されていますので、今日午後からもこの峠の道路で今県議会でも議論あります。そういう中で平たん道路という形で今動き出したので、ただ、何言ったか分かりませんが、ただ、最終完成となれば10年ぐらいかかるという試算が出ております。これから用地買収に入ります。様々な工事入るんですが、資材高騰もあるし、でも、普通に見ると県のほうでは10年ぐらい見ております、10年ぐらい。ただし、その10年間というのは、この道 して危険な道路を何としても安心して峠を越えられるような形で持っていかなきゃいけない、交通安全も含めてですね。そういう形で県では峠の道路、前に進んでおりますので報告しておきます。

○議長（本郷良克君） 小倉議員。

○4番（小倉潤二君） 町長もついでに言ったんだけど、私もついでに。

今鉄路を諦めた場合、この津軽線を利用した道路も可能なんですよ。それが平たんな道路なんですよ。なぜかという、今の青函トンネルの、トンネルが邪魔して今の道路になっているみたいなんです。それでちょっと難航しているようなんですけれども、津軽線を利用すれば、津軽線を道路にすれば平たんな道路できるんですよ。それも少し頭

の中に入れておいてもらえれば。それは山を削ったりすればできます。今の建設業では簡単なことですので、片隅にでも置いてもらえれば早く工事が進むと思うので、よろしく願いいたします。

これで私の質問を終わります。

○議長（本郷良克君） 4番小倉潤二議員の質問を終わります。

1番本間闘士議員の質問を許します。本間議員。

○1番（本間闘士君） おはようございます。1番本間闘士です。よろしくお願いします。

それでは通告に従いまして、私から一般質問いたします。

私からは、大きく4つの質問をいたします。

まず初めに買物難民支援について、次に移住定住促進について、3つ目に物価高騰対策に対する支援について、4つ目に指定管理者について質問をいたします。

まず初めに、買物難民支援についてです。

6月定例会での一般質問にて買物難民支援について質問させていただきました。当町では高齢化が進み、買物に関して多くの課題が山積している状態であると認識しております。令和2年9月定例会において福士和比古議員も同様の質問をしており、車を持たない高齢者の方の買物に便宜を図れないか、社協の車をもっと増やせないか、地区ごとに場所と時間を決めて対応できないかななどの買物難民に生じるであろう悩みについて触れております。その当時の執行部側からも回答されておりますが、今でも同じような悩みの声が聞こえるということは、この問題がいかに当町において根深い課題なのかということをお話していると感じます。

私は、買物難民支援という課題の難しさから、専門的な知見の必要性、様々な地域の声を聞くことの重要性等を踏まえ、改めて長期に取り組むべき課題であるとして、6月定例会において買物難民支援検討委員会の設置を提案させていただきました。このたび、今定例会においてその後の対応を質問させていただいたのは、6月定例会において、町長より、今まで何回もこういう話をするけれども突っ込んだ会議をやっていないし、いいアイデアをみんな出すけれどもなかなかやれない。これをきちんとした組織なり、民間の方も入れたもので一度立ち上げて検証してみる、これがまず先だと思っていますとの回答をいただき、町民のために前向きに課題へ取り組む意思の表れであると感じたからであります。

そこで1つ目の質問です。買物難民支援へのその後の取組について伺います。

○議長（本郷良克君） 町長。

○町長（阿部義治君） それでは、1 番本間闘士議員より 4 点、今質問出ております。

まず 1 つ、買物難民支援について、それから移住定住促進について、3 番目として物価高騰対策に対する支援について、これらについては各担当課長より答弁をいたします。

その後、必要に応じて私も答弁いたしますのでよろしくお願いします。最後の 4 番の指定管理者については私から答弁しますので、よろしくお願いいたします。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 1 番本間闘士議員からの質問 1、買物難民支援について。要旨といたしまして、買物難民支援へのその後の取組はについてお答えいたします。

6 月議会定例会でも同質問があり答弁しているところですが、国や自治体において、どのような方を買物難民と位置づけるかについては統一的な基準がなく、日常の買物に不便を感じるか否かは、その方の健康状態や交通機関の利便性などの生活環境、さらには家族構成等が関係してくることから、買物難民の実態を正確に把握することは非常に困難であると考えております。

また、経済産業省による令和 4 年度の地方公共団体における買物弱者支援の取組について、青森県からは 16 市町村で回答しており、その施策の内容といたしましては、買物弱者支援と位置づけたものではない施策も多く含まれており、いかに買物弱者支援が難しい問題かと認識しているところでございます。

今後ますます進展する高齢化とともに、この買物難民問題は町としても最重要課題になるものと思われれます。しかし、こうした課題は、先ほど本間議員もおっしゃられましたけれども短期的な対策では解消されるものではなく、長期的な視点から持続的な取組が必要と考えるため、まずは今別町における取組課題の整理に努めなければなりません。買物難民対策を考える上では、高齢者福祉、地域産業、交通確保、地域活性化など様々な方面から総合的に検討を行う必要があります、また、地域や民間業者の協力も不可欠であると考えています。

現在実施しています高齢者配食サービス事業や町巡回バスの見直しなども含め、6 月議会定例会で本間議員から提案がありました買物難民支援検討委員会の設置など各施策を進めていくことが肝要であると認識しております。また、先日、超高齢化地域・過疎地域における買物弱者対策について、全県的な施策・重要な施策として県知事に対し支

援を要望したところであります。

今後も、行政のみならず地域資源の活用や社会情勢を見定めながら支援対策に努めてまいりますので、議員皆様におかれましてもご理解、ご協力をお願いいたします。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1 番（本間闘士君） 答弁ありがとうございました。

ただいまの答弁の中で県知事への要望ですとか、非常に前向きな言葉が聞かれています。ただ、現在、買物に対して支援を必要とする方以外にも、将来、買物に対して不安がある方なども、私自分で聞き取り調査を行った上でそのように様々な立場から買物に不安を感じる人が千差万別でありました。そこで、課題や状況、その他実態の把握等を正確に行うためには、やはりそれ相応の手段が必要ではないかと思われます。臆測で話を進めるわけにはいきませんので、これは一つ提案とさせていただきますが、改めて65歳以上の方を中心としたアンケート調査の実施を行い、地域の実情等を把握することを提案したいと思いますがいかがでしょうか。現時点の考えで結構です。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 本間議員おっしゃられたとおり現在要望等はしておるところなんですけれども、実際町の実情についてどうなのかというところでは、先般、介護予防日常生活圏域ニーズ調査、こちらは本間議員もご存じだと思うんですけれども、そちらの中で65歳以上を対象に項目の中に買物環境をよくするため必要だと思うものは何ですかという項目あります。そういったところで、一応アンケートというのは調査しているところでございます。ただ、その調査結果についてまだちょっとまとまっておきませんので、その結果を見て、検証、分析して今後の対策に努めてまいりたいなと思っております。当然、先ほど本間議員から提案ありました、そういった委員会の中でもこういった調査結果を基にいろいろ研究、調査していかなければならないと思っておるところでございます。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1 番（本間闘士君） アンケートを提案させていただきましたが、それに近い形で意見の聴取をされているということで安心しました。

この買物難民に関しては本当に難しい問題で、新たに構築しなければいけないこともあるだろうし、今現状で巡回バスや社協の車を利用して買物をされている方もいらっしゃいます。少しの工夫をすれば解決できる問題もあります。ただ、認識はしているけれ

ども、難しいからといってやはり歩みを止めるのではなく、失敗してもいいから新たに事業をやってみるとか、少しでもチャレンジしてみる、そんな町であってほしいと私自身は思っておりますし、そのために、このような形で一般質問をさせていただきました。これから長期的に取り組まなければいけない課題でありますので、対策支援検討委員会等の委員会を設置して年に4回程度の会議を開くことで長期的にこの問題に触れるようにすれば、定期的にこの課題に対して検討できるのではないかなと思っておりますので、できるだけ前向きにお願いしたいと思います。

買物難民支援に関しては、質問を以上で終わります。

続いて、2つ目の質問事項に移ります。

2つ目の質問は移住定住促進についてです。近年、各自治体において移住定住の促進を進めており、人口減少の課題解決に向けた政策として注力している中、当町においても移住定住に向けた取組をしていることは皆様もご周知のとおりです。また、移住定住を促進することは、人口減少が著明な当町では重要政策課題の一つであり、これからますますこの取組を進めていかなければいけません。現在、移住定住に向け、今別町定住促進家賃補助金事業、今別町定住促進住宅取得等補助金事業、空き家バンクへの登録などをはじめとする施策を実施している中で、改めて当町の移住定住に関して質問をし、町民の皆様とともに理解を深めてまいりたいと思う所存です。

そこで、要旨の1つ目として当町への移住定住の促進は進んでいるのか、お伺いいたします。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 1番本間闘士議員の質問2、移住定住促進について。要旨の1といたしまして、当町への移住定住の促進は進んでいるのかについてお答えいたします。

今別町では移住・定住施策に取り組んでおり、受入れ体制の整備では、町営住宅の整備や空き家の利活用について整備しているところでございます。また、移住後の働き方への支援として、リモートワーク活動支援や新しい働き方支援、子育て支援として18歳までの医療費の無料や保育料、学校給食費の無償化、出産祝金や高校までの入学祝金、今年度からは小・中学校の修学旅行費も支援するなど、手厚く各種支援を実施しているところでございます。これまでの移住者は令和元年度から7組12人の実績があり、当町における移住定住の促進は図られていると認識しているところでございます。

今後も、移住定住の促進への取組については、議員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1番（本間闘士君） ありがとうございます。

ただいま答弁にありました移住者の数なんですけれども、令和元年度から12名の方が移住されているということでありました。これが多いと捉えるか少ないと捉えるかの判断はちょっと私にはつきかねますが、今後、移住定住の目標、例えば1年単位でどの程度、人数を見込んでいるのか、もしくは期待しているのか、その目標の数字があれば伺いたいと思います。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 今後の目標ですけれども、今現在でこの目標はクリアされております。総合計画にのせている計画上ではクリアされております。ただ、来年度策定する総合計画ではまたこの人数をもっともっと促進が進んでいるので増やしていければなということ考えているところでございます。すみません、正確な数字はあれなんですけれども、総合計画上の人数は今現在クリアされているところでございます。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1番（本間闘士君） 分かりました。

この移住定住は、先ほども申し上げましたとおり各自治体が非常に注力している政策であると認識しております。この移住定住のための部署やチームを組んでいる自治体もありますが、当町ではそのような考えはありますでしょうか。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 現在、総務企画課で、この移住定住に関しては担当部署ということでやっております。また現状というと、まだそのチーム等では立ててないんですけれども、各会議とか県で行う会議とかワークショップとかそういったものに参加して、いろいろ情報交換とかそういう形で今進めていて、いいものに関しては町でも取り入れるという形でやっております。ただ何とか対策室、移住対策室とかそういうのは今のところまだ考えておりません。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1番（本間闘士君） この移住定住政策は非常に多岐にわたり、今回答の中にもありま

したとおり補助事業とかその他も含めると非常に手広く手がけなければいけないと私は思っています。そんな中で担当職員の数が現在何名いらっしゃるのか、そして、その担当数は適切であると感じているか伺います。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） この移住定住に係る職員に関しては2人でございます。けれども、場合によっては担当部署のほうで事業によっては増やすというか、お手伝いするというか、そういう形で実施しているところでございます。適切か適切でないかといいましたら、年々、県の施策とか、だんだん幅広くなってきておりますので、そういった意味では1人だと大変なのかなというところでは認識しているところなんですけれども、現状今のところは2人で、主に2人で対応しているところでございます。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1番（本間闘士君） すみません。適切という言葉、ちょっと強い言葉になってしまったんですけれども、人数が足りているかというお話をしたかったわけです。促進に関しては町として取り組んでいらっしゃることも重々承知しておりますし、これからどんどん進めていていただきたいなと思いますので、この質問に関しては以上で質問を終わります。

次に、大川平にありますお試し住宅についてです。こちらのお試し住宅は今別での生活を体験できる施設としてこれまでも使用されてきていると思われませんが、新型コロナウイルス等の影響もあり人の交流が制限されていたため、ここ数年は使用頻度も少なかったのではと想定しております。町でもお試し住宅の整備等に予算を投入していることから、より一層の利用を期待したいところでありますが、ここ数年の使用実績はどうだったのでしょうか。

そこで、要旨の2つ目として、大川平のお試し住宅の使用実績についてお伺いいたします。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 1番本間闘士議員の要旨の2、大川平のお試し住宅の使用実績はについてお答えいたします。

移住希望者向けに旧大川平教員住宅を改修し、お試し暮らしができる施設、今別町お試し暮らし住宅を令和3年度から運営しているところであります。これまでの実績についてですが、令和3年度は地域おこし協力隊が同施設を利用し、令和4年度が4件、今

年度は現時点で3件であります。同施設については青森県移住・交流ポータルサイトで紹介しており、移住に関する相談件数も増えてきておりますので、今後、利用件数は増えていくものと思われます。

以上です。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1番（本間闘士君） 使用実績に関してはこれから増えていくものと見込まれておりますが、実際に目標としている数字がありましたらお願いいたします。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） すみません。先ほどの移住者の実績と同じで、こちらの実績についても正確な数字は今ちょっと手元にないんですけれども計画上クリアしているところでございます。コロナ禍の中ではあったんですけれども利用はあったので、ゼロではなかったので町としてはよかったのかなという実感をしているところでございます。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1番（本間闘士君） 分かりました。

お試し住宅を使用した方からの意見や感想などを参考にすれば、課題点や、よい点などをあぶり出すことができるのではないかと思うが、これまで行ったことはあるでしょうか。また、参考にして反映させた、もし仮にやったことがあるのであれば、仮に参考にして反映させたことはあるのか伺います。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 今回の実績の中での使用実績については、他の事業とも抱き合わせとかそういった形での実績も含まれております。ですので、このお試し住宅も入れ込んだ事業とかそういったものも今後展開していければなと思っております。ただ、なかなかそのお試し住宅単体でのお申込みというのはなかなか厳しいのかなと思っておりますので、これは他の自治体も同じようなことをやっておりますので、いかに目玉となる、そういった引き寄せるものとかそういったことに関しては、今後、町としても検討していかなければならないのかなと思っているところでございます。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1番（本間闘士君） ただいまの答弁にありました何か引き寄せるものという回答がありました。他の自治体では体験型のツアーなども開催しております。当町でもそうい

うツーリズム型の体験も導入しているかとは思いますが、そこを確認させていただきたいと思います。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 当町単独ではないんですけれども、青森圏域の事業でキャンプアンドワーケーションとかそういったものを実施しております。泊まりながらキャンプしながら、キャンプというか、こちらに来ていただいて仕事をして、また楽しく過ごしていくという事業なんですけれども、そういったものと、こちらの住宅とかですね。この住宅のみならず今別町で利活用できそうな施設があれば、そういったもので活用していきたいなと考えているところでございます。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1番（本間闘士君） このツーリズム型の体験は各自治体でも非常に特徴が表れるものだと思っております。今別町には観光名所もありますし、そういったものを導入して、中に勧誘して、そういうツーリズム型の体験をしていただければ当町のお試し住宅も利用促進につながるのではないかと思いますので、これからの職員の企画等に期待して、この質問を終わります。

次に、定住移住と切り離せない関係人口についてです。

これまで地域おこし協力隊や地域プロジェクトマネージャーに就任された方たちは、当町の伝統芸能、荒馬に魅了され、携わったことにより、この町へ赴いてくれております。特に、毎年行われていた荒馬まつりでの町外からの関係者の数は、ピーク時には100名を超える規模となっておりましたが、こちらも新型コロナウイルスの影響で制限せざるを得ない状況にありました。そんな中でも、つながりや関係性を保とうと各保存会の方々や町内外有志の方々、そして町の取組により、その関係性は失われることなく継続されています。ただ、制限があった期間中に実際に町に訪れることはできませんでした。ネット上での取組や地域プロジェクトマネージャーなどの働きかけもあったため、関係人口は増加している可能性もありました。今年は待望の荒馬まつりも行われ、町外からの学生も復活したと聞いております。

そこで、質問要旨の3つ目としてお聞きいたします。

今年は荒馬まつりが行われたが関係人口の増加は見られたのか、お伺いいたします。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 1番本間闘士議員の要旨の3、今年は荒馬まつり

が行われたが関係人口の増加は見られたのかについてお答えいたします。

本間議員もご存じのことと思いますが、関係人口は、移住した定住人口でもなく観光に來た交流人口でもない、地域と多様に関わる人々のことを言います。

ご質問の荒馬まつりによる関係人口の増加については、今後、荒馬まつりを通じて町と関わりを持つ人のことですので、現状、増加したかどうかは確認できておりません。ただ、今年の祭りへの町外参加者はコロナ禍以前よりも少ないと認識しているところでございます。

現在、町では荒馬以外での関係人口創出に向け、地域プロジェクトマネージャーを中心に県と連携し複数のプロジェクトを実施しておりますので、議員皆様におかれましてもご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1 番（本間闘士君） 確認なんですが、関係人口の算出はどのように行っているのか、お伺いしたいと思います。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 関係人口については算出しておりません。荒馬に來てくれた方とか、続けて來た方を関係人口というのか、もしくは荒馬終わった後ですね、今別町に訪れた方を関係人口というのか、その辺の定義等はございませんので、詳しいその算出、この人が関係人口だというのはないんですけども、とにかく何かをきっかけにとか今別町に、今別町を通じて関わりを持つ方を関係人口ということで捉えておりますので、先日私ども行っただけ出身者のラブ・いまべつ会の会員の皆様とかも今別と関わりある方なので、そういった方も関係人口という分類になりますし、様々な今別町との関わりの部分では関係人口ということになると思われます。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1 番（本間闘士君） 分かりました。

関係人口に関しては、私も先日、地域プロジェクトマネージャーの周布さんが行う海峡の家ほろづきでのワーケーションに参加させていただきました。非常に今別町を思う方の集いでありまして、こういった方が多くいるんだと改めて再認識いたしました。荒馬だけではなく、そういった形での今別に携わる関係者の方をこれからどんどん増やしていけたらと思いますので、議会等でもお力添えできるところがあればどんどん行っていただきたいと思います。

この質問は以上で終了いたします。

次に、地域おこし協力隊についてです。

10月、今定例会冒頭で報告のあった議員研修で秋保町へ行ってまいりました。そこは今別町に人口に近い小さな集落のように感じましたが、視察に訪れた地区には新しい取組をする若い事業者が店舗などを構え、非常に魅力的に映りました。その中の一つである秋保ワイナリーへ訪れた際に、施設運営をしていらっしゃる方のほかに地域おこし協力隊の方が常駐しており、その働き方に驚きました。仙台市の西部に位置する秋保町には地域おこし協力隊3名が西部地区の担当として配置され、行政と民間のはざまの位置にいながら秋保町の観光を盛り上げるという大きな目的の下、ときには事業者とともに働いたり、SNS等での宣伝広告を担当したりと、私が知っている地域おこし協力隊の働き方とは少し違うなと強く感じました。

秋保町の地域おこし協力隊のように働き方の幅を広げることができれば、当町で抱えている高齢化による人手不足や事業承継などの後継者の問題、農林、水産、畜産の担い手不足の解消などになるのではないかと、そして、最終的には今別町に魅力を感じて定住や起業をしてくれないか、そう考えたときに心が躍りました。当町では地域おこし協力隊は現在在籍しておりませんが、これからの町の未来へつなげることのできる非常に有効な制度になり得ます。

そこで、地域おこし協力隊の今後の見通しについて当町の考えをお伺いいたします。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 1番本間闘士議員の要旨の4、地域おこし協力隊の今後の見通しはについてお答えいたします。

当町においては、これまで1人の地域おこし協力隊を受け入れております。今年は募集しませんでした。来年度に向け、現在、活動提案型の協力隊と担い手不足への対策として委託型の協力隊の募集を検討しているところでございます。

今後、事業主と協議し、受入れ準備が整い次第、募集してまいりますので、議員皆様におかれましてもご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1番（本間闘士君） 今、答弁の中にありました活動提案型ともう一つ、すみません、もう一度お伺いしてもよろしいですか。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） もう一つは担い手不足等への対策に係る委託型ですね。委託型の協力隊です。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1番（本間闘士君） 活動提案型というのはどのような活動形態になるのか、お伺いたします。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） これは一つの例なんですけれども、先ほどの質問にあった、例えば関係人口の方、今別町にこれまで関係していた方が今別で何かやりたい。これまで関わることで今別町にこれが必要だとか、あれが必要だと思っている方が、じゃ今別町で私はこういう事業をやりたいんだということで協力隊で入っていただいて、自分が考えていることとかそういったもの、また、町に必要なものとかそういったものを提案して、町のほうと合えば、マッチングしたら当然受入れをして事業を展開していただきたいというのがこちらの活動提案型になっております。特にこちらからテーマを持って募集するわけではなく、まずフリーな感じで提案していただいて受け入れる形になっております。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1番（本間闘士君） では、逆に委託型というのはどういう活動内容になりますか。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 先ほど本間議員からの質問にありました担い手不足とか、高齢化による人手不足とか継承の部分になるんですけれども、そういったものを、そういったところに協力できるということで募集をかけます。例えば農業のほうでちょっと人手足りないとかそういったところがあれば募集をかけていきたいなと思っております。また漁業者もそうなんですけれども。ただ、それに関しては今どういった方とか、そこに関してまた事業主とか等と検討、協議して、受入れが本当に必要なのかとか、そういった形で意見が合えば、ぜひ町として募集をかけたいなと思っているところでございます。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1番（本間闘士君） 秋保町の協力隊の方に私、実際にお聞きいたしました。秋保町の地域おこし協力隊としているのに1つの会社に従事することは差し支えないものかという質問をしたんですが、そういう最初から活動内容で業務を受けているので問題ないと。

地域おこし協力隊としての任期中に、例えば漁師の仕事を、例えば農業の仕事を、例えば林業、畜産、介護、そういったサービスの仕事を、どのような仕事であっても、ほかの仕事を、専門的に、行ったりすることは差し支えないのか確認したいと思います。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 先ほど言いました委託型であれば、例えば介護がありましたら、その介護施設の事業主から人手が足りないということがあって町と協議した結果、じゃあそこに人手不足を補うための地域協力隊を入れるとかそういうのは問題ないと思います。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1番（本間闘士君） 私はできれば地域おこし協力隊の方は、農業、林業、水産業、畜産業、そういった事業に携わってほしいなと。それは、今別町が一次産業の活性化を望んでいるからであって、そういった雇用の仕方があればこれまでの地域おこし協力隊の雇用の仕方と少し変わった取組ができるのではないかなと思います。

この地域おこし協力隊なんですが、1年に1人しか採用できないものなのでしょうか。それとも、2人、3人と自治体の規模に関係なく採用できるものなのでしょうか。お伺いいたします。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 特に制限ございません。もっと厳密に言えば、こちらの特別交付税というもので財源措置されますので、町としては特段、特に大きい持ち出しがないので何人来てもいいんですけれども、先ほど本間議員からありました一次産業に関してなんですけれども、以前募集したことがあります、実際。ただ来なかったです、畜産の関係とかで。ですので、町側から来てほしいというよりも、やはり事業主とか事業をされている方からやはり人手が欲しいとかというので、ぜひ町に相談いただければ町としてはこういった制度がありますので、これをぜひ活用していくというので行きたいと思っております。町から押しつけるとどうしても絶対いいことはないので、ぜひ必要とする事業があれば町としても協力していきたいなと思っているところでございます。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1番（本間闘士君） すみません。これまで、そういった取組があったことは知らなか

ったので、こういう提案をさせていただきました。

ただ漁業でも農業でも林業でもそういった事業承継、担い手不足が問題視されている町ですので、逆にこちらから後継者を求めている方とかのマッチングをしてあげる等の配慮も必要なんじゃないかなと思います。ただ、地域おこし協力隊は特に制限がないということでしたので、非常に明るい話ができたかと私自身は今思っております。

地域おこし協力隊についての質問は、以上で終了いたします。

次に、居住環境についてです。

当町への移住定住を促進するためには、職があることももちろん大事であります、もう一つ高いハードルがあります。新しい土地へ移り住むと決めたときに賃貸や空き家を探す方が多いと思われそうですが、当町の場合、ネット上で探すことができるのは空き家バンクに登録されているものがほとんどで空き家バンク以外の情報の収集は困難だと思っています。さらに、空き家バンクに登録されている中から居住できる家屋が見つければいいのですが、いざ移住しようと思っても住むところが見つからなければ違う地域への移住を選択されかねません。少し極端な論理になってしまい恐縮ですが、あり得ない話ではないと思われそうです。一例として紹介させていただきますと、松山市に移住した方の声を載せた「いい、暮らし。まつやま」というウェブサイトには、移住者を対象にしたアンケート調査を行った結果が掲載されており、移住した方の気持ちを知ることができます。移住する前に困ったこととして35.9%の方が住居と答えており、その理由として土地勘がない中での住居探しやニーズに合った居住環境がないなどが挙げられておりました。当町での移住定住政策を進めていく中で居住環境の整備や構築は必要不可欠だと思われそうですが、以上の点から要旨の5つ目として質問いたします。

居住環境の整備が必要と考えますが当町の考えをお聞かせください。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 1番本間闘士議員の要旨の5、移住定住対策としての居住環境の整備が必要と考えるが当町の考えはということでお答えいたします。

現在、町では、先ほどもお答えしましたけれども、町営住宅の建て替え、新築及び部屋の改修を計画的に実施しているところであります。また、今別町空き家・空き地バンク制度や空き家利活用促進事業、空き店舗等対策事業を実施しているところでございます。

今年度は平成27年度以来、8年ぶりに全町の空き家実態調査を行い、実際の管理状況

の把握や空き家戸数が整理され、これまで以上に空き家バンクへの登録や利活用の促進が見込まれるところでございます。

今後も移住定住に係る受入れ体制の整備・強化に努めてまいりますので、議員皆様におかれましてもご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1 番（本間闘士君） ただいま答弁の中にもありましたけれども、居住環境の整備の一環として町内の住居に関する情報の整備も必要だと思われますが、空き家バンクのほかに賃貸情報や借家情報などを町ホームページへ特設ページを設けて掲載することはできないか、お伺いいたします。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 今答弁いたしました調査結果によってそういったものは、今後は間に入る仲介する業者さんとかにも関係すると思うんですけれども、そういったところでは可能になるのかなと思っております。ただ今回、全町の空き家をやることによって町としてもリスト化され、また状況、居住できるかできないかとかそういった判断も今回からできますので、そういったところではかなり情報としては整理されるのかなと思っております。それらを基に今後、せっかくこうやって調査した結果について、今本間議員おっしゃられたように情報をいかに展開していけるかというのに努めてまいりたいなと思っております。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1 番（本間闘士君） なぜこういう質問をしたかというのと、空き家バンクに登録するにはたしか一定の要件を満たす必要があったと認識しております。ただ、空き家バンクに登録するまでもないけれども、家を貸したいとかそういったニーズに何件あるか、潜在的なものは正直な話分かりませんが、そういったところに対応できれば少しでもそういった整備が進むのではないかなと思いました。移住者向けの住宅として町が空き家の今整理をしているということですが、空き家を改修して、要は整備して貸出しするということは可能なかどうか伺いたいと思います。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 可能か不可能かといえば可能だと思います。ただ町としては空き家を買収して、そこをリノベーションして貸出しするという、現在そういう計画はございません。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1 番（本間闘士君） 分かりました。

ただ町民の方には自分の家の空き家をそうやってリノベーションする、そして貸出しするようなお金がないとか、空き家はあるんだけどもリノベーションするようなお金がないとか、そういった声があるのも事実でございます。定住移住を進めていくためには町営住宅を利用させていただきたいですが、町営住宅にも数に限りがございますし、そういった政策の幅を広げることもあってもいいのかなと思いました。ただ居住環境に関してはこれからも進めていくということですので、前向きな回答がいただけて満足しております。

以上で、この質問を終わります。

次に、県外等でのPR活動についてです。

移住定住を促進していくためには、移住者を待つだけではなくて当町の魅力を伝え県内外へのPR活動も有効な手段の一つであります。現在行っているPR活動として東京都内にある青森のアンテナショップでPR活動が行われていることは知っておりますが、ほかに行っている活動があれば教えていただきたいと思います。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 1 番本間闘士議員の要旨の6、県外等でのPR活動についてですけれども、こちらについてお答えいたします。

今年度は、都内で開催された移住フェアや移住相談会などへ参加し、町をPRするプレゼンテーションをしてきたところでございます。年明けも移住フェアがありますのでそちらに参加を予定しており、年々、そういったフェアや相談会で相談件数も増えてきているところでございます。

今後も積極的に県外等で今別町をPRしてまいりますので、議員皆様におかれましてもご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1 番（本間闘士君） ありがとうございます。

こちらに関しては、今別中学校の修学旅行か何かでアンテナショップで荒馬を踊ったりとかそういった活動をしているのも知ってはおりましたが、これから、やはり移住定住を進めていくには情報の発信は必要不可欠であると改めて思いますので、どんどん進めていっていただきたいと思います。

この質問も、これで終了いたします。

最後に、担当職員についてです。

何度も重複する内容で申し訳ありませんが、このたびの視察で知ることができた知識や経験を私たち議会は町へ還元する義務があると思います。ただ、このように一般質問の場をお借りして申し上げることや議会の冒頭であったような報告をして、果たして町に還元できる仕組みになっているのかと問われると疑問が生じるというのが私の素直な意見であります。移住定住政策に限らず、すぐれた政策の構築や実施のためには水面下で役割を担う職員の協力が必要です。私は今回、議会での視察研修を通して新しい世界観を得ることができましたが、事業を担当する職員も現地へ赴いたり、取組に触れ、知識や経験を得ることも必要ではないかと感じました。

7つ目の要旨として、担当職員の現地視察や研修も必要ではないかと思うが当町の考えをお伺いいたします。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 1 番本間闘士議員の要旨の 7、担当職員の現地視察や研修も必要と感じられるが当町の考えを伺うについてお答えいたします。

これまでも移住定住に必要不可欠な地域づくりに対し、先進的に取り組んでいる自治体等への視察は実施してきております。また先日、今別町に近い人口規模で高齢化率の高さなど、もろもろ類似している自治体が実施したフィールドワークにも参加したところであります。今後も町に有益な研修や視察には参加してまいります。逆に今別町でもこういったフィールドワーク等を実施し、今別町に来ていただいた参加者から今別町の弱み強みに対する意見や提案を聞くこともとても大事なことではないかと思えます。

また、本間議員から視察についてお話ありましたけれども、地域づくりの先進地を本間議員から訪問した報告がありましたが、ぜひこういった情報も共有し今別町の移住定住の促進を図ってまいりますので、議員皆様におかれましてもご協力をよろしくお願いいたします。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1 番（本間闘士君） 今の回答を聞きますと、そういった視察研修等を行っているという認識でよろしいでしょうか。私自身は、本当に価値観が変わって感動しました。これまで視察研修というのはあまり意味がないのではないかと感じていたところもありましたが、こういった形で視察研修をすれば議員としての見識も深まりますし知識や経験も

堆積していくと思います。事業を行うには町の職員が中心となり事業を企画したり発案したりすると思っておりますので、見識を深めるためにも現地に赴いて自分の耳と肌や目で見て感じたものをそのまま今別町に還元できる仕組みがあればいいと私は思いました。実際、自治体へ赴いてフィールドワークを行ったりすることも大事ですが、職員の方の意見等も聞いて、もしそういった要望があれば町として進めていっていただけたらなと思います。

この質問に関しては、以上で終了いたします。

続いての質問は、物価高騰に対する支援についてです。

ここ数年、日本国内では、円安化が進んだ影響で海外からの輸入品の値段が高騰し、その影響は私たちの生活まで及ぶようになりました。あらゆるものの値段が上がり、各家庭の家計も苦しくなっているとお話をよく聞きます。各自治体では物価高騰対策として支援を行う施策を実施しておりますが、近隣の外ヶ浜町では現金給付による支援を行うことを決定しております。このような背景も踏まえ、町として物価高騰に対する支援が必要と思いますが当町の考えを伺います。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 1 番本間闘士議員質問の 3、物価高騰に対する支援について。要旨といたしまして、町として物価高騰対策支援が必要と考えるが当町の考えを伺うことについてお答えいたします。

コロナ禍を乗り越えた町民の皆様は、今度は物価高に直面しており、町としても最重要課題として対策に取り組んでいるところであります。

物価高騰対策については、昨年度も支援事業を実施し、今年度については10月議会臨時会において水道の減免など、また福祉灯油など予算をご可決いただき、現在その事業の実施に向け準備しているところであります。

今後も国・県の動向を注視し、必要に応じて支援事業を実施してまいりますので議員皆様におかれましてもご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1 番（本間闘士君） 答弁ありがとうございます。

物価高騰対策に関しては、非常に家計が厳しいという声が町民の方から多く聞かれております。各自治体で物価支援、物価高騰対策の対応が19日のテレビで発表されておりました。その中に何件か現金給付による支援を行うと発表した自治体がありましたが、

このたび、支援内容として決定した経緯としてどのように決まったか教えていただきたいと思います。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 確かに他自治体において、それぞれ支援の仕方は違います。ああやって現金給付という形でやると非常に目立つんですけども、今別町においては、支援方法として、まず水道減免とか、あと燃料の部分では灯油、また一次産業に対しては燃料とかそういったものに対しての支援をしたところでございます。単に現金給付がいいのかという部分では、ちょっと我々も検討したところでございます。やはり生活に直面する部分を支援するのが一番ではないかということで考えたところでございます。また先般、国で予算通りでしたが、またその支援対策についても国・県から示されると思いますので、そこでまた新たな支援対策について町としても検討してまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1番（本間闘士君） 町民の方からは現金給付がいいと率直に言われることも多々あります。ただ、町としてたくさんの選択肢の中で考えた結果が水道料減免という形なのであれば、それを超えて質問することによって広報紙等で知っていただけるのも私たち議員の仕事なのかなと思っております。

物価高騰対策に限らない話ではあるんですけども、先般、商品券の配布事業も行ったと認識しております。配布、購入、購入ですね。この商品券なんですけれども、商品券以前配布したこともありましたが。購入型の商品券ですと1万円購入して1万5,000円、要は5,000円分の得をするというような形だったと思うんですが、10月の商品券は購入がただだと認識しております。ただ、この購入型の事業ですと1万円分買って初めて5,000円分のサービスを受けられるような形式なんです、この1万円が捻出できない高齢者の方などもいらっしゃるというお話が聞こえております。そういった実情を踏まえ、次回、商品券事業等をやる場合は配慮していただきたいなと思うんですが、そこについて当町の考えがありましたらお伺いいたします。

○議長（本郷良克君） 町長。

○町長（阿部義治君） 現金給付を必要とする方もあります。しかし、今別の町の中でお金が使用してもらえるかなれば、そうでもない。今商品券も合わせて、今別の町の商店街の活性化、そういうことも含めれば、商品券、現金給付でなくしていきたいと思っ

ておりますし、これからも、今商品券は、このプレミアムをやった時点からお金のないのにどうして買うのやという話は結構聞くことがあります。でも、地域の経済、商店街の皆さんの活性化のために今、今別町は商工会に補助金を出して商工会事業として展開しております。そういう中で、商工会の事業の中で商店街の皆さんも元気になるようにということでやっていますので、これから町ではストレートに購入型でなくて配布型というのもこれからできれば、財源の許す限りで国の補助金とかつげながらやっていきたいと思っております。あくまで現金でなくて商品券の配布という形を取りたいと私は思っております。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1 番（本間闘士君） 地域を活性化させるためであれば購入事業でも私はいいと思っております。ただ、支援事業となりますと配布型の事業がいいのではないかと感じておりますので、そこは町長の回答にある程度納得しました。

物価高騰対策に関しては水道料の減免をするということですので、今後またこういった支援があった場合に、いろんなまた選択肢の中から町民の方の要望になるだけ添えるように意思決定をしていただきたいと思います。

この質問も、これで終了いたします。

最後の質問となります。指定管理者についてです。

青函トンネル広場は町の観光名所の一つであり、今年の夏にも多くの観光客でにぎわってございました。当町で青函トンネル広場のトイレ清掃を行っていることは認識しておりますが、展望台にある広場付近の清掃等を行われていなかったと思います。あの広場には観光客が訪れる反面、ごみやたばこのポイ捨てなどがあり、適切に管理していかなければ観光名所の魅力が半減してしまうおそれがあります。また、掲示物の管理につきましても、町職員が定期的に貼り替えをする労力を考えれば、指定管理者を設置することでメリットが生じると考えます。

青函トンネル広場に指定管理者を置くべきと思うが当町の考えをお伺いいたします。

○議長（本郷良克君） 町長。

○町長（阿部義治君） 1 番本間闘士議員の質問 4 の指定管理者について。青函トンネル広場に指定管理者を置くべきと思うが当町の考え方ということでありますが、答弁いたします。

青函トンネル広場の清掃及び草刈りについては、会計年度任用職員が今現在対応して

おります。側溝の詰まりなどが発生した場合には、役場の産業建設課職員が対応しております。現時点では現行のままの管理体制の維持で考えておりますので、指定管理者制度の適用は今のところ考えておりません。

以上です。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1番（本間闘士君） ありがとうございます。

私は以前にもこの質問をしておりますが、同様の回答でございました。ただ掲示物、トンネル広場に提示されている掲示物に関しては定期的に貼り替える等の配慮が必要だと思います。ただ定期的に貼り替えるとなったら職員がその都度対応しなければいけないので、それは大変だなと思いますので、ラミネート等で色あせないように工夫などをする必要があると思うんですが、そこに関して町として考えがありましたらお伺いいたします。

○議長（本郷良克君） 阿部課長。

○産業建設課長（阿部 聖君） 掲示物に関してなんですけれども、ラミネート等の処理はしておりません。ただ、日焼け等に関してはラミネートをしても多分同様の結果になってしまいますので、極力、私たちとしては掲示物の交換を今よりも頻繁に行うように検討したいと思います。

○議長（本郷良克君） 本間議員。

○1番（本間闘士君） 分かりました。現時点では指定管理者を置く必要性がないというような形で認識しました。

ただ、掲示物に関しては定期的に貼り替えを行うという答弁もいただきましたので、トンネル広場に関しては地域プロジェクトマネージャーの方が新たに事業展開している場所でもあります。町の観光名所として魅力を半減させないためにも、これからもその動向に注力しながら青函トンネル広場についての魅力を失わないように努めていきたいと思います。また、町としても努めていただきたいと思います。

大変長くなって申し訳ありませんでしたが、以上で私の質問を終了いたします。ありがとうございました。

○議長（本郷良克君） 1番本間闘士議員の質問を終わります。

3番田中哲也議員に質問を許します。田中議員。

○3番（田中哲也君） 3番田中哲也です。よろしく願いいたします。

私からは、質問事項1つであります。

質問事項1、職員の人数について。質問要旨として、現在の職員数は適切であるのか伺いたいです。よろしくお願いいたします。

○議長（本郷良克君） 町長。

○町長（阿部義治君） 3番田中哲也議員の質問1にあります職員の人数について。要旨として、現在の職員数は適正であるかの問いであります。これについては、担当課長より答弁しますのでよろしくお願いいたします。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 3番田中哲也議員の質問1、職員の人数について。要旨といたしまして現在の職員数は適切であるか伺いたい、こちらについてお答えいたします。

第5次今別町定員適正化計画では、令和5年度の職員数を63人としており現状は60人です。今後の事務遂行上、必要最小限とする職員数を踏まえ、計画では令和9年4月1日の職員数を54人とする数値目標を設定している当町においては適正であると認識しているところでございます。

今後も定年退職者と再任用職員、年齢構成のバランスを考慮しながら新規採用するなど、定員管理の適正化に努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

○議長（本郷良克君） 田中議員。

○3番（田中哲也君） ありがとうございました。

なぜ今回こういう質問をしたかという、現在、日本各地、人口減少による様々な企業において人材不足が生じています。そのため、僕も町職員のこれからの人数に対してすごい不安を覚えたところであります。いろんな形で、AI対応などで行われていますが、我が町でもこれから人口減少が進んで行きます。令和9年には54人の計画とありますが、令和9年じゃなくて今後の対策としてどのように考えているのかも伺いたいと思います。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 答弁では54名ということで答弁させていただきました。

今後についても、その人数どうのこうのよりも、とにかく行政サービスを低下させないように努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

○議長（本郷良克君） 田中議員。

○3番（田中哲也君） そうですね。町民が不安にならないような行政サービスが対応できる人材確保をお願いしたいと思います。

また、町長議案説明要旨にもありましたが、来年度策定する町総合計画や、まち・ひと・しごと創生計画、先を見据えた取組とありましたが、今別町の魅力を発揮し今別町で働きたいと思えるようなまちづくりをお願いしたいと思います。

○議長（本郷良克君） 総務課長。

○参事・総務企画課長（太田和泉君） 町長の要旨にもありましたけれども、来年度、町総合計画、町の上位計画で一番最上位計画になるんですけれども、そちらを策定します。これまでの10年間、第5次総合計画をやってきたところなんですけれども、そういった事業の実績を職員みんなで分析、検証して次につなげるような計画にしていきたいと思います。そういった中で、町長の提案にもありましたけれども、職員だけではなく議員の皆様からいろいろなご意見等をいただきながらいい計画に努めてまいりたいと思っています。よろしくお願いいたします。

○議長（本郷良克君） 田中議員。

○3番（田中哲也君） ありがとうございます。

ぜひ今別町で働きたいという人材を確保できるように、職員、また議員一同力添えしたいと思いますので改めましてよろしく、議員からもよろしくお願いいたします。

私からは以上です。ありがとうございます。

○議長（本郷良克君） 3番田中議員の質問を終わります。

以上で一般質問を終了いたしました。

本日はこれをもって散会いたします。

午前11時54分 散会